

TAP magazine

Extra edition とよたアート
プログラムマガジン



TAP magazineは、豊田市の文化や芸術をたくさんの人に届けたいと想い集まったアートファンが中心となり運営しているウェブサイトです。

今回、「とよたまちなか芸術祭 2022」の開催に合わせ、番外編のフリーペーパーを作成しました。とよたまちなか芸術祭の紹介と、いつも記事を書いているTAPライターたちの雑記を掲載しています。ウェブサイトでは、豊田市で生まれている文化や芸術、それらが生まれているスポットや、生み育てているひとを取材し、紹介しています。ぜひ、お気軽にのぞいてみてください。



（とよたまちなか芸術祭2022の様子）

とよたまちなか芸術祭



芸術ラボ研究生インタビュー

担当：東村

去年からスタートした、とよたまちなか芸術ラボ。アート分野における次世代の実践者の創出を目的としたカリキュラムを通して、ラボの研究生自身がとよたまちなか芸術祭の企画・展示・イベントの計画、芸術祭の準備などを行い企画運営を学んでいます。今回はその研究生である原田さん、菅田さん、松永さんにインタビューを行いました。

実は、今回の記事を書いているTAP東村も去年の芸術ラボ研究生です。初めてのインタビューということもあり、緊張は最高潮に達していました。心臓はバクバクです。



ー芸術ラボに参加しようと思ったきっかけは？

菅田：人前で話すことがあまり得意ではなく、それを変えたいと思ったのがきっかけです。大学のサークルで、バルーンアートの活動をしていて、バルーンアートって芸術と繋がるんじゃないかということで、今回応募しました。

ー今回イベントの計画を立てていらっしやいますが、イベントを企画するうえで難しいと感じることはありますか？

原田：二人一組になってコンセプトとテーマを最初に決めなくてはいけないという時に、二人のコンセプトを混ぜ合わせるにはどういうものが良いんだろう：ちゃんとコンセプトに沿っているテーマってなんだろう：ってというのが考えていく中でとても難しかったです。

松永：僕は、伝えたいことが上手く伝わらず、結構誤解されたりすることが多いです。でも、それがどうしてなんだろうって考えたときに自分の説明不足もあると思うんですけど、結構皆さん自分の中でその人のイメージをつけてしまっていたり、こういうものなんだろうと思いついてしまっている部分があるなと思っていて、そこをどう越えていくかが難しいです。

ー今後どのような芸術祭にしていきたいですか？

原田：こういった活動をするのが初めてなので、芸術祭を通して依頼の仕方を学んだり、もう少し芸術に深く関わっていききたいなと思っています。写真



「とよたまちなか芸術祭」は、日常の中で気軽にアートに触れたり、作品を発表したりするきっかけになればと、2020年度から毎年開催されています。豊田市駅周辺の店舗や施設を会場に、展示やパフォーマンス、マーケットなどが行われます。

三回目を迎える今回は、「知の技術」をテーマにセレクトされたアーティストや、公募で集まったみなさんのさまざまな作品が展示され、初日には音楽ライブやダンスパフォーマンス、ブックマーケットも行われます。各会場をめぐるスタンプラリーもあり、アートのまちを楽しむ芸術祭になっています。

会 期：2022年10月8日(土)～30日(日) ※月曜休み

入 場 料：無料

10時～19時 会場によって異なります

展示会場：豊田参合館、豊田中央図書館、TIFA ACE A館 6階、豊田市近代の産業とくらし発見館、ギャラリーカフェ楽風、Hotel Aunties はか

セレクトアーティスト

伊藤正人、日下 宗隆、鷹巣由佳、辻将成、鳥巢貴美子



が好きなので、自分の中で好きなものに関して理解を深めていきたいなと思っています。

ー趣味で写真を撮る？

原田：そうですね。撮影はスマホでしているのですが、撮るのが好きで、写真を撮るために遠出したりしています。

菅田：楽しいことが好きなので、自分も楽しみたいし、体験してくださった方にも楽しんでいただきたいという思いが強いです。このような機会をせっかくいただいたので、芸術祭に参加した方達に、楽しんでもらえるような手法を考えていきたいなと思っています。

作品展示やパフォーマンス、ブックマーケットなど、今年も企画が盛りだくさんの「とよたまちなか芸術祭2022」。アートが溢れた秋の豊田市のまちなかを是非ご堪能ください。



下を向いて歩こう



スーパー雨女



モリイ トコトコ日記 in 豊田



TAPライター
森井 早紀

こんにちは、TAPライターの森井です。
いつまで経っても「おいでんの湯」の
サウナに入れない初心者です。

豊田に引っ越し、早くも1年が経ちました!

最近「豊田スーパー巡りの会」を個人的に開催。
「ここでしか買えない〇〇がある!」
それを見つけた時の嬉しさと言ったら...!!!
少々地味ですが、日々楽しんで過ごしております。

今回の「とよたまちなか芸術祭」では
『バナナ姉妹』の一人(妹)として作品を出品して
います。作曲家 山中彩音(姉)と「豊田マーチ」
を作りました。

是非会場で聴いてみてくださいね。

「雪村」のからあげ定食



豊田市美術館近くでオススメと言えば「雪村」!
いつもは日替わり定食ですが、
ここぞという時は「唐揚げ定食」を頼みます。
これがすごいボリュームなんですよ...!
完食した時の達成感といったら...。
店内に飾られている絵はがきにほっこり。



「白頭山」の ユッケジャンスープ



「給料日、みんなで行こうよ白頭山」
到着したらメニューを見ずに即注文。
塩タン、カルビ(2皿)、韓サラダ、
ユッケジャンスープ、ライス。
ああ至福のとき。体育会系のお兄ちゃん達が
モリモリ食べるのを横で見るのも好きです。



『あぶさんと』は何を頼んでも美味しい。
ホットケーキも...石釜で焼かれたパンも...。
オススメは「りんごPizza」です。
りんごとチーズが相性抜群!やみつき!
店頭で販売しているカンパニーを
買って帰ることが多いのですが、
こちらもね...噛めば噛むほど味がしてね...
はあ、美味すぎてツライ!!



TAPライター
森 かん奈

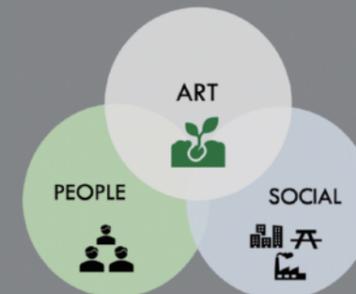
TAP magazine 番外篇で復活!

こんにちは、この度はTAP magazineフリーペーパーをお手にとっていただきありがとうございます。ライターの森と申します。TAPのライターになって早3年余り。豊田にはまだまだ隠れアートスポットが眠っていたり、一方では新しいスポットが発生したり、文化的な可能性がある場所だなと感じます。「TAP magazine、あ~あれね!」という方も「TAP magazineって何?初耳です。」という方も。楽しんでいただける内容をお届けできるよう頑張りますね!

アートスポットをつくる、第一歩を目指して

ART FIELD PROJECT
artwork management, promotion

アートスポットとはどのように生まれるのでしょうか。アートを取り巻く人、社会、そしてアート作品。他にもきつとアートな拠点の発生にはいろいろな要素が関わっているのです。それらが無理なく関係を生み出せる場所って素敵だと思いませんか。そんな3者のエコロジカルで循環的な関係性を目指して個人的に「Art Field Project」という活動を始めました。



美

シバビ・アートスクール



実は私、「豊田市駅東口まちなか広場 とよしば」でも働いています。そこで展開するのが「シバビ・アートスクール」です。静物デッサンを中心に誰でも気軽に参加できるアートスクールを目指しています。まずはアートに触れてもらう、好きになってもらう。そんな緩やかなアートファンの皆さんを増やせたらと思います。豊田でアートに触れ合いたい皆さん、よかつたら遊びに来てくださいね。

🌲 シバビ・アートスクールについての詳細は以下をご覧ください 🌲

Instagram : art_field_project
とよたまちさとミライ塾+公式サイト



My Favorite Books

TAPライター
植村 優子

いつもは美術館やアートに関する記事を書いているのですが、今回は私のお気に入りの本を紹介します！
各本の表紙はTAPライターのイラストでお送りします！



「なぜ、これがアートなの？」
(淡交社 1998)
アメリア・アレナス

このタイトルの疑問は、私を含め、現代アートを観たときに多くの人が思うのではないのでしょうか。豊田市美術館、川村記念美術館、水戸芸術館現代美術センターで開催された展覧会「なぜ、これがアートなの？」はこの本をもとに共同で企画されたそうです。近現代の多くの作品を、鑑賞者という視点で紹介してくれています。真っ黒なだけの絵や、明らかに落書きにしか見えない絵に出会ったときの途方に暮れている私たちに、寄り添いながら語ってくれています。しかし現代アートはいままでの歴史の積み重ねの先にあるものということを読んでいると感じます。やっぱり奥が深い沼にはまりますね。



「シンジケート」[新装版]
(講談社2021)
穂村弘

複数の歌人の短歌を集めた本で、サバンの象の歌を読んでびっくりしたのが出会い。いつか手に入れたいと思っていた本。短歌ってこんなに現代のことばで書いていいんだ。無茶をしたいお年頃の気分に合わせてくれました。新装版はヒグチュウコのイラストが表紙で、装丁も凝っていてかわいいので、飾って眺めるのも一興。



紙面が足りないので
今回はここまで！
ぜひ第2弾で紹介する日を
夢見て...

special thanks KANA

「シネコン 111 吉野朔美のシネマガイド」
(エクスナレッジ 2008)
吉野朔美



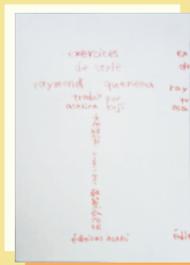
その名の通り、映画の紹介の本なのですが、漫画家ならではのイラストとコメント付きのイラストがまた一つの作品としてほれられます。映画好きの作者は、個性的な映画からエンターテインメントまで、多様な作品を紹介しています。でも別に全部を手放しでほめているわけでもないのがまたいい。映画をそんなに見ない私も気になる！ってなり、これをいつかアオゾンプライムに入ってみまわろぞ！って思っているけどなかなか。



「ルネサンス著作集」(全7巻)
(新潮社 2001)
塩野七生

このシリーズの中の第1巻の「ルネサンスとは何であったのか」を持って初のイタリア旅行に行きました。(結局現地では読まず重いだけになり…あほ……)それくらいイタリア好きにさせてくれた本。ルネサンス期のイタリアでそれぞれの都市や人物に焦点をあてた、全7巻。でもほんとに読みやすいんだよね。歴史書と物語の中間といった感じの語りか、堅苦しくなく、容易にルネサンス時代のイタリアへ思いを馳せることができます。お気に入りにはヴェネツィアの巻です。

「文体練習」
(朝日出版社 1996)
レーモン・クノー



同じ1つのエピソードを99種類の文体で書いている本。よくもそんなに！思いつくなあ、と思います。文体の種類は、戯曲、手紙、漢文調、新刊のご案内(!)。中には「短歌」なんてのも。翻訳も大変そう。内容が同じでも文体によって全然違う印象を受けることが一目でわかります。そうすると文体って本当に大切ですね。

花火の魅力

三年ぶりに開催された豊田おいでん祭り。祭りで見える花火は身体に響く音や、賑やかな雰囲気、魅了されて気分が高鳴りますね。私は、おいでん祭りが開催される数日前から着々と準備が進む豊田市駅前を見て久しぶりに感じる祭りの空気感に心が躍っていました。生まれも育ちも豊田市なので、保育園のときには踊りにも参加していました。今は普段家から出ないせいで、体力が絶望的な私はもう参加はできそうに

ないですが、今でも踊れる…はずですよ……！
当日私は、二日間ともよしば夜市でイベントのお手伝いをしていたので、花火や踊りをちゃんと見ることはできませんでしたが、よしばから一瞬見た、フィナーレの大きな花火は圧巻でした。テンションが上がってしまい、思わず「うおー！！」と声を出してしまいました。駅の近くでも大きく綺麗に見えるんですね。来年は、もっと近くでゆっくり花火を眺めながら一杯やりたいなと考えています。それにしても、毎度のことながら帰宅ラッシュは凄まじい……どこを見渡してもミッチミチに人がいました。これも含めお祭りですね……

三年ぶりに開催された豊田おいでん祭り

久々の祭りに浮かれながらも私はドリンク作り製造機として働いていました

花火の音が聞こえるけど見えないな！

やっどくから花火見てきていいぞ！

行ってきます！

身体に響く音と共にキラキラと散る花火を見るとやっぱり祭りは良いなあと思えます。

帰り道が激混みすること以外は……

※マスクを省略しています。



TAPライター
東村

デザインを学びながら好きなことを自由に楽しく活動中。

イベント一覧 (10～12月)

全て豊田市内で開催されるイベントです。

開催日	イベント名	会場	料金/時間	お問合せ
9/13(火)～ 12/4(日)	特別展「藍染の絞り 片野彦・かほりの仕事」 (特別協力:日本民藝館)	豊田市民芸館	一般:500円、高大生:300円、中学生以下、70歳以上、豊田市内在住・在学の高校生、障がい者は無料(要証明書)、国際芸術祭「あいち2022」現代美術展との相互割引あり /9:00～17:00(祝日を除く月曜休館)	豊田市民芸館 0565-45-4039
9/23(金・祝)～ 12/4(日)	森のアート展Vol.17 「藍染めに魅せられて なみ工房の仲間たち」	豊田市民芸の森	無料/9:00～17:00 (祝日を除く月曜休館)	豊田市民芸の森 0565-46-0001
10/9(日)	ala Collectionシリーズvol.13 「百日紅、午後四時」	豊田市民文化会館	一般:3,000円(25歳以下:1,500円) ※未就学児入場不可 /18:00～20:00	豊田市民文化会館 0565-33-7111
10/15(土)～ 11/27(日)	企画展 未生の美—技能五輪の技	豊田市美術館	一般:300円、高大生:200円、中学生以下、75歳以上、豊田市内在住・在学の高校生、障がい者は無料(要証明書) /10:00～17:30(祝日をのぞく月曜休館)	豊田市美術館 0565-34-6610
10/15(土)～ 1/29(日)	企画展 ゲルハルト・リヒター	豊田市美術館	一般:1,600円、高大生:1,000円、中学生以下、75歳以上、豊田市内在住・在学の高校生、障がい者は無料(要証明書) /10:00～17:30(祝日をのぞく月曜休館)	豊田市美術館 0565-34-6610
11/6(日)	秋季市民茶会	豊田市美術館	呈茶券:1席600円、前売:10/7(金)10:00～ 市民文化会館1F事務所にて /10:00～15:00(受付9:30～14:30)	豊田市文化振興財団 文化事業課 0565-31-8804
11/13(日)	とよたこども創造劇場 「あやかしダイアリー」	豊田市民文化会館	1,000円/①13:00～②17:30～	豊田市文化振興財団 文化事業課 0565-31-8804
12/3(土)・ 4(日)	豊田市民音楽祭2022	豊田市民文化会館	500円/3日14:00～ 4日13:00～	豊田市文化振興財団 文化事業課 0565-31-8804
12/4(日)～ 18(日)	第60回豊田市民美術展	豊田市民文化会館	無料/10:00～18:00 (8日、17日20:00まで) (18日16:00まで)	豊田市役所生涯活躍部 文化振興課 0565-34-6631
12/9(金)～ 11(日)	第33回歳末チャリティー作品展	豊田市民ギャラリー	無料/10:00～18:00 (11日16:00まで)	豊田市民ギャラリー 0565-33-2112
12/17(土)・ 18(日)	とよた演劇祭「宿る舞台」	崇化館交流館	一般:2,000円、高校生以下:1,000円/未定	豊田市文化振興財団 文化事業課 0565-31-8804

※内容や日程は変更になる場合があります。



WEBサイト



Instagram

TAP magazine-Extra edition (2022年10月)

発行 : TAP magazine 編集部
 編集部 : 森かん奈、森井早紀、植村優子、東村
 デザイン : 東村

〒471-0035 豊田市小坂町12-100 豊田市民文化会館
 公益財団法人豊田市文化振興財団文化部文化事業課内